

ひまわり通信

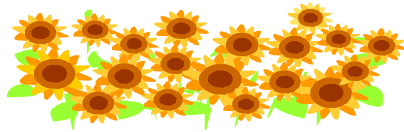
№ 58 平成 19 年 6 月 26 日

新潟市立東青山小学校

児童数 620 人

(231)9611 fax(231)9623

いのち輝く子ども



<http://www.niigata-inet.or.jp/higashi/>

<http://www.niigata-inet.or.jp/higashi/i/> (携帯用)

E-mail h-aoyama@niigata-inet.or.jp

特別支援教育講演会

6 月 20 日に行われた授業参観には、平日にもかかわらず多くの保護者の皆様から参観いただきありがとうございました。また、その後に行われた特別支援にかかわる講演会にも多数参加いただきました。重ねて御礼申し上げます。

平成 19 年度、「特殊教育」から「特別支援教育」へと制度改正が行われ本格実施されています。また、当校では今年度から「あおぞら学級（特別支援学級）」が新設されました。これらのことを受け、特別支援教育への理解と協力を得ることを目的に講演会を実施したところです。講師として新潟市特別支援教育サポートセンター指導主事の西村様をお迎えし、特別支援教育の概要及び配慮が必要な児童の具体的な姿や対応の仕方など分かりやすくお話しいただきました。詳しくは当日配布された資料をご覧くださいと思いますが、お話の中で「みんなができることができない。それが毎日連続しており、本人も気付いていない。だから、まわりにいる大人がそれに気づき、適切な支援していくことが大切である。」というような内容の話がありました。また、自信を失い意欲が低下している子どもに、学校や家庭が取り組んでほしいことの具体的な話がありました。ちょっとした配慮、支援が子どもたちに自信をもたせ、意欲の回復につながりますので、まわりにいる大人が手を差し伸べる必要があるのではないでしょうか。特別支援教育についての意識を高めていく必要性を痛感した講演会でした。

配慮を要する子ども？

- ・すぐにあきてしまう
- ・おしゃべりがとまらない
- ・後始末が苦手
- ・すぐに飽きてしまう
- ・友達とトラブルになりやすい
- ・一生懸命取り組んでいるのに定着しない

< 講演会資料から抜粋 >



コーディネーター
脇野智子
(あおぞら学級担任)

相談窓口

自信をもたせるために

< 子どもが努力する姿をほめる >

- ・結果(テストの点数など)だけで評価しない
- ・たとえ失敗してもその経過をほめる
- ・何がよいのか分かりやすく伝える など